

露地モモの平棚仕立て栽培における整枝法と枝梢管理法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部
担当者:岡田 眞治

研究のねらい

近年、中晩生モモのネット被覆栽培が増加したことにより、露地栽培でも、ハウス栽培と同様に、低樹高化が求められている。そこで、平棚仕立ての最適な整枝法及び枝梢管理法を確立し、露地栽培下での低樹高化を促進する。

研究の成果

1 整枝法

(1)新植の場合は、4本主枝の改良H字形整枝が最も適する。

この整枝法は、2本主枝や3本主枝と比べて、樹冠拡大が早く、このため初期収量が多く、樹勢調節が容易である。

(2)既存の立木仕立て樹を平棚仕立てに改造する場合は、樹間距離が5m以下であれば上記の整枝法でよい。

ただし、5m以上であれば、樹冠占有面積率を高くするために、主枝先端部を開かせたX字形整枝またはそれに類似した整枝法にすることが必要である。

2 枝梢管理法

(1)主幹付近の主枝部から発生している側枝は早期にせん除し、樹冠内部は返し枝で埋める。また、主枝先端部が弱らないように適正な力枝の配置と着果制限を行う。

(2)樹冠占有面積1㎡当たり15果程度を着果できる結果枝を配置する。

(3)夏季せん定は、相対照度(棚下/棚上)または樹冠下への日光透過率が20%程度を目安にして行う。なお、そのときの葉面積指数(LAI)は2.5~3.0程度となる。

普及上の留意点

1 県下全域の露地栽培(特に、ネット被覆栽培)モモに適用できる。

2 新植の場合、永久樹の植栽距離は、改良H字形整枝で4m×8mを基準にする。

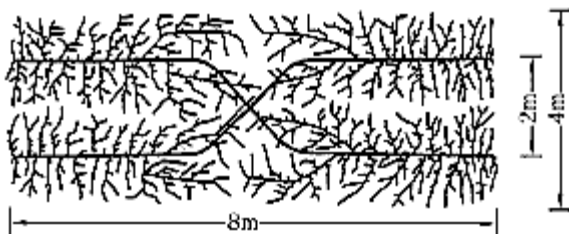


図1 改良H字型整枝の平面図

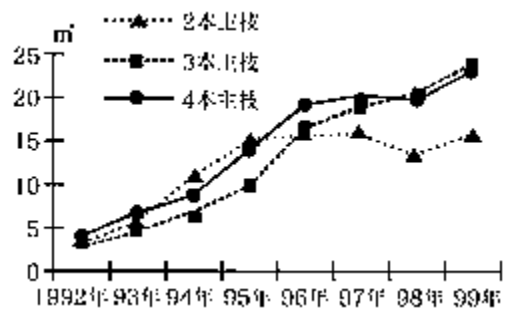


図2 主枝本数の違いによる樹冠占有面積の年次別推移

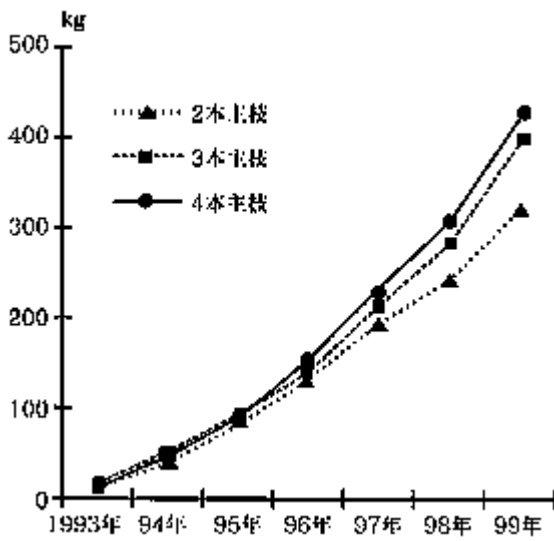


図3 主枝本数の違いによる1樹あたり累積収量の年次別推移

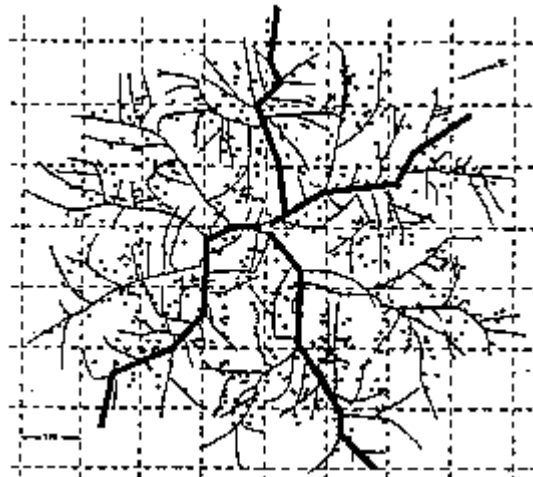


図4 立木から平棚仕立てに改造した「川中島白桃」の8年目の樹形と着果位置(樹齢:12年生)

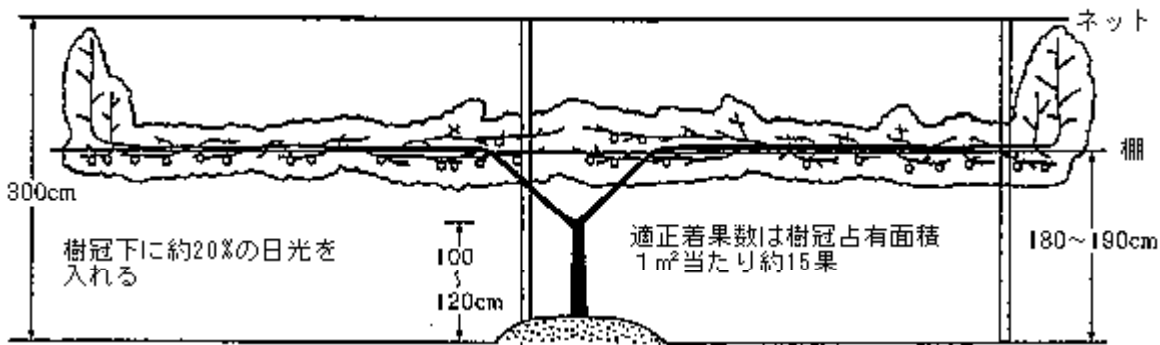


図5 平棚仕立ての側面図